

四季の変化を肌で感じることのできる公園

<発想>

日本は四季の豊かな国として、世界的にも景観が優れているとの評価を得ていると思います。しかし、実生活においては、利便性の向上を目的に都会化され、自然環境を感じることなく日々の生活を営んでいます。

休日や長期休暇などを利用して、アウトドアを通じて自然環境に親しむことを行うことはありますが、日々の生活においては、四季の変化を感じる機会があまりありません。

また、最近ではゲリラ豪雨や夏場の温度上昇など熱帯地方特有の現象など、気象の変化等を痛感することがあります。

そのため、四季の変化を肌で感じることのできる公園を造って欲しいです。

<具体策>

例えば、春に咲く桜、冬に咲く桜等、違う品種の桜を植え、1年を通して違う桜を見ることにより、四季を感じる事が可能ではないかと思えます。

季節の花を愛することで、季節を実感できると感じる方も多いと思えます。春の花では「桜、藤、木蓮、躑躅」、夏の花では「向日葵、紫陽花、蓮、百日紅」、秋の花では「秋桜、金木犀、菊、薄」、冬の花では、「シクラメン、山茶花、福寿草」等が挙げられ、これらの花々の有名な観光地へ足を運んで、四季を感じることもあります。

また、違うエリアに蛸（ゲンジボタルとヘイケボタル）を生息させ、梅雨をはさんで違う種類の蛸をみる事が可能であれば面白いのではないかと思えます。

他にも、四季を肌で感じる手段として、サイクリングできる空間の創造や、家族で遊ぶスポットを造ることにより、より頻繁に賑わい、且つ親しむことができる公園になるのではないかと思えます。

<応用>

多くの季節に触れる機会を有した公園施設を造る事により、より多くの方がその公園を利用する機会が増え、自然へのふれあい、親水広場としての役割、さらには交流の場の提供を創出する事が可能であると考えます。

「公園＝人が集う場所」と捉えると、有事の際の防災拠点としての役割も持たせることができると思えます。